

# 自己資本の状況 (平成30年3月31日現在)

自己資本の充実を図り経営の健全性・安全性を確保しています。

出資金は、期末現在7億83百万円、会員数は12,358人となっています。

この出資金に剰余金処分後の諸積立金、一般貸倒引当金を加えたコア資本に係る基礎項目の額から、調整項目の額を差し引いた自己資本の額は、287億50百万円となりました。

一方、信用リスク・アセットの額にオペレーショナル・リスクを加味したリスク・アセット等の額の合計額は、1,323億62百万円となりました。この結果、自己資本比率は国内基準(4%)の5倍を上回る21.72%となり、経営の健全性・安全性を十分確保することができました。

これからも、事業計画の推進を通じた利益の積上げにより自己資本の充実に努めてまいります。

平成30年3月末  
自己資本比率  
**21.72%**

平成30年3月末  
自己資本の額  
**28,750百万円**

## 【自己資本の額および自己資本比率の推移】

(単位:%、百万円)

項目	26年3月末	27年3月末	28年3月末	29年3月末	30年3月末
自己資本比率 (国内基準4%)	21.12	23.05	24.37	21.37	21.72
自己資本の額	22,167	23,769	25,396	27,263	28,750

## 自己資本の額、リスク・アセット等の額の内訳

$$\text{自己資本比率 (21.72\%)} = \frac{\text{①自己資本の額 (ハ)} \quad (28,750 \text{百万円})}{\text{②リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)} \quad (132,362 \text{百万円})}$$

### 自己資本比率とは?

自己資本比率とは、金融機関の健全性を示す重要な指標のひとつで、出資金や積立金等の自己資本を「分子」に、リスク・アセット(損失が発生する可能性のあるリスク資産)を「分母」として算出します。

現在、国内金融機関は4%以上であることが求められており、高いほど健全な財務体質であるといわれています。

### ①自己資本の額

(単位:百万円)

項目	当期末	経過措置による不算入額
<b>コア資本に係る基礎項目</b>		
普通出資または非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	27,838	
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	970	
<b>コア資本に係る基礎項目の額 (イ)</b>	<b>28,808</b>	
<b>コア資本に係る調整項目</b>		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライセンスに係るものを除く。)の額の合計額	40	10
前払年金費用の額	18	4
<b>コア資本に係る調整項目の額 (ロ)</b>	<b>58</b>	
<b>自己資本</b>		
<b>自己資本の額 ((イ)-(ロ)) (ハ)</b>	<b>28,750</b>	

### ②リスク・アセット等の額の合計額

(単位:百万円)

項目	当期末	経過措置による不算入額
<b>リスク・アセット等</b>		
信用リスク・アセットの額の合計額	123,784	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	8,578	
<b>リスク・アセット等の額の合計額 (ニ)</b>	<b>132,362</b>	

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫および信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しております。なお、当金庫は国内基準を採用しております。また、信用リスク・アセットの額の算出にあたり標準的手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出については基礎的手法を採用しております。